

令和6年度 学校自己評価システムシート (県立熊谷女子高等学校)

目指す学校像	自主自律の精神と豊かな人格を育み、新しい時代をリードする心身ともに健康な生徒を育成し、生徒の第一志望の進路実現を果たす進学校。
--------	---

重点目標	1 自ら設定した課題に主体的に取り組む「学びのマネジメント力」の育成を図り、「授業力の熊女」として県指定事業等を活用した質の高い教育を一層進め、生徒の学力を伸長する。 2 ICTやDXを活用した個に応じた最適な学習環境を提供するとともに、幅広い可能性をもった生徒に第一志望を実現させ、生徒がウェルビーイングや達成感を実感できる進路指導を行う。 3 地域や地元自治体との連携の下、地域にオープンな学校づくりを進めるとともに、地域の教育や文化の発展に貢献する「地域期待の進学校・熊女」として、積極的な情報の発信を行う。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 生徒は様々な取組に主体的・意欲的に取り組んでいる。観点別評価に係る評価内容・評価規準をシラスに記載し生徒・保護者に公開している。 【課題】 学校内外の活動や事業を積極的に活用させるとともに、自らの興味関心に応じた学びをマネジメントできる力を育成する必要がある。	主体的活動の推奨と、学びのマネジメント力の育成	①部活動や学校行事、委員会活動等の活性化による、生徒の主体的活動の推進と、リーダーシップ・フォローアップの育成・伸長 ②デザイン事業等を活用した主体的・探究的な学びの実践 ③関東地区 SSH 指定女子高校研究協議会に参加し、他校生との交流及び大学と連携した科学分野の最先端の学びの実践 ④観点別評価の研究と実践による学びの改善、授業改善の推進	①学校生活における生徒の満足度 85%以上 ②地域・外部機関と連携した探究活動の肯定的な評価割合 80%以上 ③大学等と連携した活動への参加者数(昨年度実績のべ 26人) ④学習評価を活用した生徒の学びの改善率 75%以上	① 学校生活における生徒の満足度 85% ② 地域・外部機関と連携した探究活動の肯定的な評価割合 88.9% ③ 大学等と連携した活動への参加者数のべ 27人。(3月開催の研究発表会にさらに9名参加予定) ④ 学習評価を活用した生徒の学びの改善率 1年生 90.7%、2年生 88.5%、3年生 91.2%	B	【課題】 生徒は学校内外の活動に意欲的に参加をしている。学習や活動の振り返りを通して「学びのマネジメント力」をさらに高めたい。 【改善策】 学習評価を充実させ、教科ごとの自身の強みや課題を把握し、学びをマネジメントさせる。
2	【現状】 進路指導部と学年が連携し、「第一志望を諦めさせない」指導を組織的に行っている。国公立を含めた難関大学への合格者はもっと増えてもよい。 【課題】 進路情報の提供や学習支援に継続的に取り組むことにより、挑戦する意欲を育て、多様な選択肢から第一志望を定めさせる必要がある。	個性を生かす進路選択と、第一志望をあきらめさせない指導の徹底	①教員相互の授業見学や、授業研究会等による授業の質的向上 ②地方国立大学説明会をはじめとする大学説明会・分野別説明会の計画的実施 ③発達段階に応じた計画的・効果的な進路情報の提供 ④補習授業や「オンライン連携講座事業」「駿台サテット」等、多様な学びの選択肢の中から主体的に選択させ、第一志望の進路実現に向けた学習支援の充実 ⑤模擬試験の計画的実施と分析に基づく、的確な進路指導の実施	①教員同士の学びあい・授業改善の手応えあり 80%以上 ②各種説明会後の生徒アンケートで肯定的回答 90%以上 ③進路日より等による年間 80 回以上の情報発信(昨年度実績 93回) ④夏季補習授業・オンライン連携講座事業への参加者数(昨年度実績のべ 2186人) ⑤第1志望・準第1志望への進学実績の向上(前年度比)	① 教員同士の学びあい実施 87%、授業改善の手応えあり 95.6% ② 各種進路説明会後の生徒アンケートで肯定的回答 1年生 96.9%、2年生 98.2%、3年生 94.4% ③ 進路日より等による年間 85 回の情報発信(1/10時点) ④ 夏季補習授業・オンライン連携講座事業への参加者数のべ 2347人 ⑤ 第1志望・準第1志望への進学実績 56.6%(3/13時点)(前年同期 59%)	A	【課題】 計画的な進路情報の提供や、きめ細やかな補習授業を展開し、生徒は効果的に活用している。高い志を持ち挑戦する意欲を一層育てたい。 【改善策】 教員による面談や生徒相互のピアサポート等を通して、充実した学びの環境を主体的に活用させる。
2	【現状】 全校生徒が iPad を使い、学年・クラス各授業で ICT を効果的に活用している。DXの推進も図られつつある。 【課題】 ICT を活用した効果的な学習支援、授業の工夫改善を引き続き行うと共に、生徒個々のニーズに応じて計画的・主体的に学びに取り組ませる必要がある。	ICTやDX技術を活用した個別最適な学びの充実	①ICT を効果的に活用した授業の充実による質の高い授業の提供 ②全ての授業でオンライン授業を実践し、やむを得ず登校できない生徒に対する学習保障の充実 ③「駿台サテット」を効果的に活用させ個々の得意・不得意や生活スタイルに応じた学びの構築 ④iPad を活用した教材・情報の提供	①ICT を活用した授業づくりの充実に向けた研修会・情報共有の実施 ②学びを止めないオンライン授業の提供(生徒満足度の向上) ③「駿台サテット」の質問アプリ利用状況の向上(前年度比) ④教職員の活用充実度 80%以上、生徒の使用満足度 80%以上	① 年次研修受講者等による ICT を活用した授業づくりに関する研究授業・研究協議の実施 ② 出席停止時等のオンライン授業の提供による生徒の学習充実度 1年生 74.2%、2年生 77.1%、3年生 85.8% ③ 「駿台サテット」の質問アプリ利用のべ 3316回(前年度 1904回) ④ 教職員の端末機器活用充実度 100%、生徒の使用満足度 1年生 95%、2年生 95.2%、3年生 94.5%	A	【課題】 授業による ICT 活用と駿台サテットの活用が進んでいるが、双方の強みを生かした個別最適な学びの充実を組織的に進める。 【改善策】 「授業力の熊女」としての個々の教員の高い授業力に基づく実践や駿台サテットの活用事例を教職員間で共有し、指導の工夫・改善を進める。
3	【現状】 学校の魅力や生徒の頑張りを積極的に発信すると共に、伝統ある進学校として地域からの評価・信頼を得てきている。 【課題】 生き生きと活動する生徒の姿を中学生や地域に公開し、評価を高め、生徒募集に活かす必要がある。	規律ある充実した学校生活の実現と、情報発信による生徒募集の充実	①挨拶や身だしなみの徹底による規律と品格ある熊女生の育成 ②丁寧な「みとり」の実践と教育相談体制の充実による個に応じた支援の充実 ③学校 HP の更新・充実と、学校の魅力の積極的発信 ④学校説明会・学校見学会の工夫改善と全職員が協力した生徒募集活動の充実 ⑤地域連携やボランティア活動の充実 ⑥多様な国際交流事業の工夫と積極的推進	①挨拶運動等、生徒と連携した取組の充実(各学期1回以上) ②カメテラ等と連携した個に応じた支援の充実(課題解消・解決事案数の向上) ③県の媒体を活用した魅力発信 10回以上 ④10月時点での中学生の進路希望状況の改善(前年度比) ⑤ボランティア活動、小中連携、地域連携の実施回数(前年度実績 6回) ⑥国際交流事業参加生徒の満足度 90%以上	① 生活委員と教職員による各学期当初3週間の挨拶運動の実施 ② カメテラ等と連携した個に応じた支援のべ 57件。校内支援委員会を中心とした情報共有及び課題への早期対応 ③ 県の媒体を活用した魅力発信 7回、学校公式インスタグラムの6月開設(フォロワー数 県内公立高校第2位) ④ 10月時点での中学生の進路希望状況 0.82倍(前年度 0.75倍) ⑤ ボランティア活動、小中連携、地域連携の実施回数 12回(前年度実績 6回) ⑥ 国際交流事業参加生徒の満足度 100%	A	【課題】 新規の取組を行うなど積極的に情報発信・生徒募集を行ったが、中学生の進路希望状況に大きな改善が見られない。 【改善策】 企画委員会を中心に本校の将来構想への検討を行いながら、中学生や保護者、地域の期待を踏まえた積極的な魅力発信を継続する。

学校関係者評価	実施日 令和7年1月27日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> 「学びのマネジメント力」は高校卒業後も重要・不可欠な力である。マネジメント力を高める効果的な事例について生徒に情報提供するとよい。 定量的には評価項目を達成しているが、より上を目指そうとしていることは素晴らしい。 大学等と連携した活動はとてもよいものであるので参加者数を一層伸ばしてほしい。 大学入学共通テストでも出題されている教科横断的な学びは小中学校でも重点を置いている。現行学習指導要領の主旨を踏まえ、引き続き教員の学び合いに取り組んでほしい。 生徒相互に学び合える環境をつくることは大切であるので、志を同じくする生徒が意識を高め合える取組はとてもよい。 熊女の進路指導の取組は素晴らしい。取組について外部への積極的な情報発信をしてほしい。 社会においてもデータを分析し、思考・行動する力が求められている。学習場面において、iPadの一層の活用充実を図ることが望ましい。 生徒たちは小中学校から一人一台端末を活用している。その系統性を踏まえ、高校でも効果的な活用が望まれる。 駿台サテットや質問アプリの利用数が増加しているのは、生徒が主体的に活用できていることの現れである。 生徒が生き生きと活動する姿を伝えることが生徒募集につながる。地域と連携し、積極的に外部に出ていくことの必要性を感じる。 熊女の学校公式Instagramは中学生・保護者にとって魅力的である。学校の特色や活動をアピールしてほしい。